

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 7 月 2 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	瀧 雄渡

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
日本、幸島及び都井岬
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ニホンザルの調査(幸島実習)
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 5 月 5 日 ~ 平成 30 年 5 月 12 日 ( 8 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター、杉浦先生
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>今回の実習では、ニホンザルの行動に関する調査を行った。幸島には5月10日から5月11日まで滞在した。この2日間で、グループ内で異なる立場にある3個体の個体追跡を行った。1分ごとに行動を記録して、それぞれの個体について各行動の割合を計算し、3個体で比較した。結果としては、高順位の個体ほど採食割合が高くなった。これは、狭い範囲に高密度でニホンザルが生息している幸島では食物が不足しており、順位の高い個体が他個体を排除して食物を独占する傾向にあるためではないかと考えられる。</p> <p>悪天候のため幸島に上陸できなかった際に、都井岬で野生馬の観察を行った。</p> <p>また、幸島観察所の敷地内でドローンの操縦方法を学んだ。</p> <p>この機会を得て、野生動物に対する接し方、フィールドで安全を確保し、無事に調査を終えるための技術を学んだ。</p> <p>また、この経験は、将来のフィールドワークにおいて、フィールドにおける様々な問題を解決するための大きな助けとなるだろう。</p>

図 1. サツマイモを洗うニホンザル



図 2. 都井岬の野生馬の授乳

6. その他 (特記事項など)